

平成 28 年度 事業報告書

社会福祉法人うねび会

ぽれぽれグループの理念と基本方針

「尽道楽生」 ～ ゆっくり たのしく ごいっしょに ～

高齢者を人生の大先輩として敬い、常に謙虚に介護をさせていただくという気持ちを忘れてはなりません。

1. 質の高いサービスの提供

介護の道に近道はありません。高齢者の「生活を支える」ことを使命として「長生きしてよかった」「あなたとめぐり会えてよかった」と満足と信頼していただけるよう努めなければなりません。

2. 王道をいく

質の高いサービスの提供を、順法の精神と社会的ルールに則ってひた向きに追求して行くことが地域・社会に貢献することに繋がります。

またそこで働く職員自身にも自らの誇りと自己実現が可能な組織づくりにも繋がります。

3. 「考える」「学び合う」「実践する」組織

一人一人が常に向上心を持って、自己啓発に努めます。現場に学び、失敗で学び、帰納と演繹の考え方で広く智恵を共有し実践し評価する組織でなければなりません。「楽しく学び合い」「夢があって思いやりのある職場」を目指します。

4. 地域に開かれた組織

四通八達に地域社会と交流し地元から好感と信頼をいただける組織でなければなりません。例えば「地域の清掃をする」「地域の住民と仲良くする」「地域が繁栄することをして貢献する」「介護の相談に応ずる」「介護情報の提供」「職場の提供」等々を通じて地域に開かれた組織を目指します。

5. 発展的、継続性ある組織

ご利用者から「信頼」を「安心」をいただく為には組織が発展的で永遠に活性化していなければなりません。その為には全職員が一致して知恵と汗をだして目標を立て達成する責任があります。

はじめに

平成 28 年度は、住宅型有料老人ホームぽれぽれ白樺コンフォートの開設と社会福祉法の改正への対応が大きなポイントであった。

ぽれぽれ白樺コンフォートは年度末で 15 床と目標には届かなかったが、自由で気ままな生活を送れるような支援を心がけてた。

社会福祉法改正については、定款の変更や評議員選任解任委員会の開催、新評議員の選任、情報開示、公益的な活動の検討などを行った。

介護サービスでは、外部研修とそのフィードバックにより介護技術の向上を図ることができ、また介護サービス向上委員会による食事の座位姿勢の見直しを図ることができた。ただ、転倒による骨折事故などが複数回あり、夜間の体制の難しさはあるが、重大な事故を起こさないといったことは課題として残った。

公益的な活動としては、地域向けの健康講座の毎月開催とぽれぽれカフェをスタートさせることができた。今後も継続して取り組みたい。

事業概要

（１）第１種社会福祉事業

地域密着型介護老人福祉施設の経営

（２）第２種社会福祉事業

認知症対応型共同生活介護施設の経営

老人短期入所事業の経営

老人居宅介護等事業の経営

老人デイサービス事業の経営

（３）公益を目的とする事業

居宅介護支援事業

養成講座事業

有料老人ホーム事業

家事支援事業

介護予防・日常生活支援総合事業

1. 重点目標の振り返り

① ぽれぽれ白櫃コンフォートが利用者が安心して暮らせるような場に

5月に開設し少しずつではあるが入居者も増えてきた。ぽれぽれケアセンター白櫃との違いは、より自由に外出したり趣味活動を行ったりという自立した生活を送られているという事。職員との距離間やかかわり方などに配慮しながら支援を行っている。アクティビティや行事などはぽれぽれケアセンター白櫃と一体的に提供することにより、楽しく活動的な時間を提供することができた。

訪問介護事業は初めての事業であったが、コンプライアンスに気を付けながら対応した。比較のお元気な方が多く訪問介護を使わなくても過ごされる方も多く、今後としてはアセスメントと適切な訪問介護の利用である。

② 改めて利用者の生命と生活の質を支える基本的な介護力を高める

今年度は、老人保健施設大和三山様への施設外研修を業務として位置付けて参加した。重度化している利用者があるユニットはスキルが上がり、安全で安楽な介護が提供できつつある。

また介護サービス向上委員会では「食事ケア」をテーマに取り組んだ。食事の際の椅子への座り替え、口腔ケア、座位のポジショニングなどの見直しを図ることができ、良い姿勢での食事ができつつある。

稼働率については、誤嚥性肺炎や転倒による骨折などによる入院も見られ、目標としていた入所系施設の稼働率は達成できなかった。

③ 職員研修を進めるためのリーダーの育成

スタッフのOJTについては、新人職員へのマンツーマンでの指導などの体制づくりは進めていくことができたが、新人へのケアや指導力については課題が残った。

リーダー研修については、マネジメント研修を見直し、介護労働安定センターの研修も活用しながら、年間目標管理、考え方のくせを知る、報連相、アセスメント、マネジメントとは、多職種連携、リーダーのQ&A、予算管理などの研修を行った。研修内容も良くリーダー職に沿った研修を行う事ができ今後に活かせると思われる。

④ ぽれぽれ白樫コンフォートを含めた地域の拠点としての役割

引き続きキャラバンメイトを中心に、認知症サポーター講座の講師やファシリテーター、小学校へのキッズサポーター養成講座にも協力を行った。

また毎月第三日曜日に、地域向けに認知症予防体操（コグニサイズ）を開催した。地域の方と利用者と一緒に楽しく行う事ができた。

今年度より、地域公開健康講座という形で、毎月地域の方々に講座を開催した。膝の痛み、エンディングノート、歴史の学び、講談など多種多様な講座を開催することができ、参加者も大変喜んでおられ毎回参加される方もおられた。

またコミュニティカフェという位置づけで、「ぽれぽれカフェ」も12月より毎月開催することができている。

新たに新沢小学校や第5こども園と運動会を通じての交流を図ることもでき、地域との顔が見える関係ができてきた。

養成講座については初任者研修を行う事ができ、次年度の実務者研修につなげていきたい。

社会福祉法人による社会貢献共同事業（まほろば幸いネット）に参画した。活動自体は次年度からとなるが、横の繋がりを大切に協力体制で取り組みたい。

⑤ 在宅生活を支えるためのアセスメント・連携（生活の継続）

デイサービス、ショートステイとも生活の継続性や介護上の課題分析、ニーズ把握の視点から、在宅生活のアセスメントが重要視されている。特にデイサービスでは理学療法士がご自宅に訪問に伺いアセスメントを行い、それをデイサービスの機能訓練へとつなげるようにした。ショートステイではご自宅での様子を生活相談員が介護職に伝えるように連携を図っている。

2. 各種委員会、会議、担当、研修等

（1）各種会議、委員会

	平成 27 年度	平成 28 年度
事故件数	239 件	235 件
ヒヤリハット件数	337 件	491 件

苦情報告	3 件	2 件
------	-----	-----

今年度のヒヤリハット件数は 491 件（前年度 337 件）、事故件数は 235 件（前年度 239 件）、苦情は 2 件（サービス漏れなど）であった。内出血や軽微な事故についても事故としてカウントしているので件数は多くなるが、ヒヤリハット件数は多くなり、職員の気づきの意識が高まった。ただ、年度目標であった服薬ミスをなくすという点では課題解決までは至っておらず継続した取り組みが必要である。また、医療機関に受診した場合には介護保険事故報告書を橿原市に提出することになっているが、平成 28 年度は合計 8 件あり、特に転倒事故が多くみられた。怪我や転倒事故については A D L の低下にもつながることもあり、できるだけ減らすことができるよう予防策と緩和策などの複合的な視点で検討を進めたい。

感染症委員会では、手洗いの研修や吐物の処理方法など行った。また冬場は感染予防対策として、職員への検温・体調管理・手洗い・うがい・マスク着用、面会者への検温・手洗い・うがい・マスク着用の徹底を行ったが、残念ながらグループホームでのインフルエンザの発生が見られた。

介護サービス向上委員会では、「食事」をテーマに 1 年間取り組んだ。特に食事の際の座位姿勢の見直しを図ることができ、椅子への座り替えを進めることができ前屈みの座位姿勢をとることができている。

接遇委員会では、プロの講師をお呼びし職場の巡視、指導、モニタリングを行ってもらった。言葉遣い、身だしなみ、しつらえなどの改善を図ることができている。

（２）研修

今年度も、O J T、O F F - J T、S D Sなどを組み合わせた研修を実施した。特にリーダー向けのマネジメント研修では、リーダーの悩みや考え方のくせの修正、予算管理など多岐にわたって役に立つ研修を行う事ができた。また、介護技術研修については効果的で、安楽な移乗介護の習得につながった。キャリアアップ研修では、「食事」をテーマに取り組む中で、座位姿勢の見直しを図ることができ、椅子への座り替えを進めることができ前屈みの座位姿勢をとることができてきた。

社外研修では、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護基礎研修、ユニットリーダー研修、介護福祉士養成施設実習担当者研修など、多岐にわたる研修を行う事ができた。研修後のフィードバック研修も意識的に行う事ができ、アウトプットの機会につなげることができてきた。

（３）実習受け入れ

今年度も、介護福祉士養成施設、看護実習生、歯科衛生士専門学校、介護労働安定センター、奈良県福祉人材センターなどから積極的に実習生を受け入れた。実習生の延べ実習生数は 80 名を超えた。見学者も多く、アンケートを取る中で貴重なご意見を運営

に活かすように心がけてきた。

（４）行事、ボランティア、面会等

今年度も季節ごとの行事、地域へのイベント参加など積極的に行った。特に新沢小学校と第５こども園と新たにつながったのは成果である。

ボランティアの協力はばれぼれ白樫の運営には欠かせないが、今年度も 555 名の方が関わっていただいた。新たなバンド演奏会や小学生の朗読劇なども。

面会者数も多く、年間面会者数はのべ 4248 名であった。今後も気兼ねなくいつでもお越しいただけるような雰囲気づくりを心がけたい。

（５）公益的な活動、地域との連携

ばれぼれ白樫コンフォート開設に伴い、毎月健康講座と称して、膝の痛みあれこれ、空き家活用法、エンディングノート、歴史の学び、講談など毎月開催することができた。合計 195 名の参加があり、リピーターも多く地域向けのイベントとして定着しつつある。

ばれぼれカフェも地域向けのカフェとして冬場より毎月行った。ばれぼれの利用者の参加がほとんどであるが、地域の方なども参加もあり、合計 24 名の参加があった。気兼ねなくお越し頂け相談できるそんな場所になればと思っている。

道路の定期清掃、コグニサイズ、町内会の年末の夜警周りなどの活動も継続的に行っている。

新たに地域とつながったケースとしては、新沢小学校と第５こども園の運動会に参加、新沢地域の小学生有志の劇団員リトルぐらんによる朗読劇、ふれあい新沢での介護相談などで交流・連携を図ることができた。

3. その他

開設後５年が経過した。オープン当初の混乱や戸惑いも緩和し、軸となるリーダー職の成長も見られる。地域との連携や開かれた施設づくりという視点ではより進めることができた。ただ、職員の定着率については改善されず継続的な取り組みが必要であること、そして転倒事故が多かったのが課題として大きい。次年度はこの２点については重点的に取り組みを進めたい。